

開催日:2024年2月18日(日) 18:00~20:00

会場:Zoomによるオンライン会

参加者: 清水(49C)、鶴岡(44M)、佐野(62W)、阿部(雅)(47修C)、松永(47C)、
吉平(50C)、阿部(桂)(46修S)、二宗(46M)、荒居((39S)、窪田(46W)、秦(H04M)
森口(50E)、中村(洋)(修54C)、金井(修46C)、荒井(修46C)、横山(H01W)、
笠谷(H18C)松原(修56C)、菊島(45C)、倉林(44C)、中村(啓)(修48M)、
福島(修50C)、瀧上(48P)田野崎(52K)

合計24名

今回のプレゼンターはH04機械科卒の秦さんである。名古屋大学教授、弓道部のOB会の世話役ということもあり、その面からの繋がりでの参加者もあった。またWeb PALから各支部長あてに案内も出されていたこともあり、今回5人の初参加者があり、今までの最高に近い24人の参加での会となった。

Zoom
グループ



今回のプレゼンのテーマは「和弓と人工知能 機械なのか 道具なのか」である。秦さんは卒業後、民間企業に就職したが29歳の時再び大学に戻り、現在は名古屋大学の教授の職についている。

自己紹介で、放蕩と怠惰の10代、怒涛の20代、自分の道を決めた30代、転機の40代、今の50代と区切り、その時代時代でのエピソードとその時の自分の信念を紹介してくれた。

この信念は今の学生だけでなく広い年代層にも非常に参考になる言葉である。

大学に入り、弓道場での出会いで直感的に弓道に入部した。

洋弓と和弓について動画も含めて準力学的に説明してくれた。

洋弓は機械であり力学的合理性を優先して複雑な構造を容認。初心者でもうまく飛ばし、的に当てやすい。和弓はシンプルな構造を優先させた道具であり、道具を使いこなす技が必要であり、初心者は矢をまっすぐ飛ばすことすら難しい。

道具は人間に使いこなすことを要求し、機械は人間に一体化することを要求する。

今話題になっている人工知能に質問した結果を紹介、解説した。質問者のレベル

に応じた回答を生成するのが生成AI。使い手の技量で大きく結果が異なる。

人工知能も道具と機械それぞれの側面を有しながら急速に発展中。しかし人間は技術の進歩に合わせて進歩しているか？ということで結んでくれた。

その後の懇談では、他種類の弓や、他のスポーツと比較した理論的質問や、精神的な内面からのアプローチの仕方等の幅広い面での意見交換がなされた。

同じような道(弓道、剣道)の話でも、剣道は人との間をどうとるか、弓道は自分との間をどうとるかという精神論な話にも広がった。

弓道は修業であり、理論を頭で体得しさらに頭だけでなく体がそれに基づいて動くようにすることであるとの言葉も聞いた。

今回はこのように、弓の力学的な話から、技術が飛躍的な進捗で進む中で、人間はどう対応していくのか、今回の話をもとにより深く考えていくことが大切ではないのだろうか。



幹事のつぶやき一言

今回の新しい参加者は、100年以上の歴史ある弓道部、最近の活動開始のWeb PALの両方からの声掛けでもあった。話も技術の進歩する中で人間としてどう向かっていくべきかを、いろんな最新の話題も入れてわかりやすく話していただいた。皆さん満足し考えさせられた会でした

文責 二宗(46M)

今回の参加者

